




論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)乙第 36 号	氏名	松脇隆博
学位審査委員	主査	川上 純	
	副査	永安 武	
	副査	高村 昇	
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価          本研究の目的は、Sheehan 症候群の発症に関係する産科的要因を、臨床指標、ホルモン値、下垂体 MRI を用いて解析することであり、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価          2006 年以降に分娩時大量出血後の Sheehan 症候群 3 例 (Sheehan 群) および分娩時大量出血にもかかわらず Sheehan 症候群を発症しなかった 6 例 (non-Sheehan 群) を対象とした。両群間でのホルモン欠落症状、産科 DIC スコア、総出血量、ショックインデックス (S.I)、意識レベル、下垂体前葉ホルモン、エストラジオール(E2)、インスリン様成長因子-1(IGF-1)、遊離サイロキシシン(FT4)、コルチゾールおよび下垂体 MRI 所見を比較し、Sheehan 群の特徴を明らかにするものであり、研究手法は妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価          上記手法で解析した結果、Sheehan 群では下垂体ホルモン欠落症状、産科 DIC スコア高値、有意な意識レベルの低下、IGF-1 低値、E2 低値、低 Na 血症、下垂体 MRI 異常所見を呈することが明らかとなった。今後の Sheehan 症候群の早期診断および治療に関する研究への進展が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は Sheehan 症候群の早期診断および治療に関する研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p>			
(注) 報告番号は記入しないこと			